

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開  
 ⑫ 公開特許公報 (A) 昭62-49838

⑬ Int. Cl. 10/00 ⑭ 離別記号 103 ⑮ 延長登録番号 E-7033-4C ⑯ 公開 昭和62年(1987)3月4日

審査請求 未請求 発明の範囲 1 (全3頁)

⑦発明の名称 生検用鉗子

⑧特 願 昭61-128277  
 ⑨出 願 昭61(1986)6月4日  
 ⑩優先権主張 ⑪ 1985年6月4日 ⑫ フランス(FR) ⑬ 8508386  
 ⑭発明者 ジャン-マリー シン フランス国 パリ 75116 アブニュー ピクトル ウゴ  
 トゲン 45  
 ⑮登録人 ブルン ゼタン フランス国 パリ 75655 リニ デュバンダン 23  
 ⑯代理人 ジャン-マリー シン フランス国 パリ 75116 アブニュー ピクトル ウゴ  
 トゲン 45  
 ⑰代理人 ブルン ゼタン フランス国 パリ 75655 リニ デュバンダン 23  
 ⑱代理 弁理士 関根 秀太

四月 紙面 五

3. 発明の詳細な説明

本発明は、シースの一端でリンクロッドに各々開脚状に接合されたスプーン又はあご部材から成る生検用鉗子に係わるものであり、該リンクロッドはシース内を通過するワイヤと一体を成しており、シースの他端に位置する把手によりコントロールされる。

針はスプーン又はあご部材の間に位置する。

公知の生検用鉗子においては、生検標本の採取部位を決めるために用いる針は二箇のあご部材の間に固定されており、生検で「歯歯になる」場所を占めることになる。

更に公知の生検用鉗子はあご部材がお互いに並なるように連結し、各あご部材の切削端に向いている端部はリンクロッドと接合している。二箇のリンクロッドはシースの各端部でメインロッドと接合し、シース内を通過するコントロールワイヤに固定されている。この種の公知鉗子は、二つのあご部材と、メインロッドとは一点だけで接合しているリンクロッドとが形成す

1. 発明の名体

生検用鉗子

2. 特許請求の範囲

- (1) シースの一端でリンクロッドに各々連結されたスプーン又はあご部材2個から成り、該リンクロッドはシース内を通過するワイヤと一体を成すように連結しており、シースの反対端に位置する把手のコントロールをうけ、あご部材の間に針が位置する生検用鉗子において、該コントロール リンクロッド(9,10)が該針(5)に連結し、あご部材(3,4)がその上を針(5)の長手穴(6)が通る固定軸(7)に連結することを特徴とする生検用鉗子。
- (2) 針(5)に横方向切欠部(12)が設けられたことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の生検用鉗子。

## 特開昭62-49838(2)

る並行凹凸形が歯虫を中心にしてのみ削くことが出来ので生後の精度、効率といった点で欠陥があった。更に、極く小さい部材を想定してるので、細かい手作業を必要とした。

本発明による歯子は、簡単な構造を有し、歯子を閉めていても針が引き出し可能であるので、前述した公知の歯子の欠点を取り除くことができる。あご部材は歯子を開閉している際には操作できない。

上記目的を達成するために、本発明による生歯用歯子は下記の主要な特徴を有する。即ち、リンクロッドは針と連結しており、あご部材は針の長手方向穴が動く固定軸に連結されている。

歯子を開じた時に粘膜内への針の進入を容易にするために、本発明は歯子に横方向の切り欠き部を設けることを配慮した。

本発明の実施の一例とするため、本発明歯子の一実施例による切削端を示す部材の表面を参照しながら以下に詳細な説明を述べる。

生歯用歯子は、シース(1)一個、シース1内

を貫通し、切削端部に対応する(図面の通り)始部に位置するハンドル(図示せず)によるコントロールをうけるワイヤ(2)から成る。シース1内を通過し、ハンドルによりコントロールをうけるワイヤ(2)は、スプーン又はあご部材(3,4)を互いに回転させる。スプーン又はあご部材(3,4)は各々凹みぞ部(3',4')を有する。歯子を開じると、これらの凹みぞ部(3',4')により生後の量が決定される、針(5)を用いて生歯標本採取の際にあご部材を固定する。

上記の本発明実施例によると、ワイヤ(2)はシース(1)に固定したスリーブ(6)内に位置する針(5)の後部に一体となって固定される。

あご部材(3,4)は、その長さの中央附近でスリーブ(6)と一体であるリベット(7)に接合し、その上を針(5)の長手方向穴(8)が移動する。凹みぞ部(3',4')の反対側ではあご部材(3,4)各々リンクロッド(9,10)に接合されている。リンクロッド(9,10)は、あご部材(3,4)の反対側で針(5)に固定したリベットから成る共

通孔(11)に接合する。

ワイヤ(2)をすべらせると、針(5)と一体軸(11)とを引張ることになる。あご部材(3,4)は開口部(8)が通っている固定軸(7)のまわりを旋回する、ワイヤー(2)を牽引することにより、あご部材(3,4)から成る歯子が開り、針(5)は凹みぞ部(3',4')が形成するスペース内に針と完全に入ってしまう。この状態では、生歯量は最大となる。

2ヶ所(1,11)で密内されるあご部材(3,4)は、公知の生歯用歯子と違ってワイヤ(2)の歯のまわりを回転することはない。

前述の歯子の組立は、公知の歯子とくらべて容易であり且つ時間がかかるない。更に公知の針つき生歯用歯子と比較すると本発明による歯子では、針と主装置とが一体化されており、部品の数が一つ少なくなる。このため、組立、固定化、切削作業が省略される。従って、本発明による生歯用歯子は公知の歯子とくらべて廉価である。

本発明の好ましい実施例によれば、本発明は針に横方向切欠部(12)をあけたことに起因した。針(5)を引っ込めると、あご部材(3,4)が開まり、あご部材の切削端部は粘膜内に進入して生歯標本を採取、切欠部(12)は針(5)が粘膜外へ出るのを防げる。これにより歯子の粘膜内への進入が容易になり特に粘膜の抵抗が強い時には、生歯採取を容易にする。

## 4. 図面の簡単な説明

第一図は、本発明による生歯用歯子の一実施例を示す。

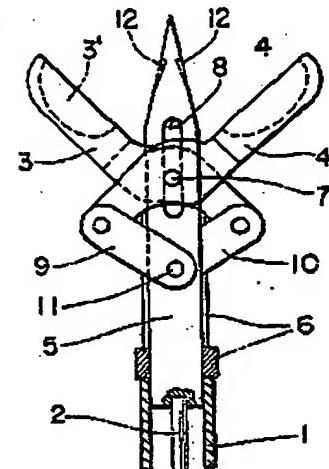
図中 1……シース 2……ワイヤ  
3, 4……スプーン、あご部材  
3', 4'……凹みぞ部

特開昭62-43838(3)

5 ……針 6 ……スリーブ  
 7 ……リベット 8 ……閉口部  
 9, 10 ……リンクロッド  
 11 ……共通軸 12 ……切欠部

図面の添書(内容に変更なし)

特許出願代理人 井辻士 関 桂秀太



## 手 球 装 置 及 ブ (ガス)

昭和61年9月1日

特許庁員会議

1. 本件の登録 昭和61年特許出願128277号

2. 発明の名前 生技用電子

3. 指定をする者  
 事実との関係 特許出願人  
 名称 ブランマリー シントゲン(独一名)

4. 代理人  
 住所 107 東京都港北区北山1丁目2番1号  
 西山ビル410 電話 403-5281  
 氏名 (6263) 井辻士 関 桂秀太

5. 指定する日付  
 起算日 昭和61年8月5日  
 発効日 昭和61年8月24日

6. 指定により登録する発明の数 0

7. 指定の対象  
 (1) 代行権を有する客観  
 (2) 指定な題目

8. 指定の内容  
 判決の通り

9. 送付状類  
 (1) 委任状及び回収文  
 (2) 図面

各1通  
 1通



-225-

THIS PAGE BLANK (USPTO)